

新世紀ティーンの実

20年の歳月を越えて、見えてきたもの

Chapter 2

新世紀ティーンのからだと意識

株式会社ワコールは、2001年5月、“20年前のティーン”および“成人女性”と“現代のティーン”いわゆる“新世紀ティーン”の体型の違いについて、比較分析し、結果を発表しました。

そして今回、新世紀ティーンの意識について分析しました。

今回の調査でわかったことは、

“新世紀ティーンには、新世紀ティーンのプロポーションとマインドがある”

ということであり、この調査結果を伝えていくことにより、

新世紀ティーンを正しく理解し、応援していくことに繋げていきたいと考えています。

また、この結果を基礎データとして、ワコールは「新世紀ティーンのからだところ」に

対応する商品づくりに、今後も取り組んでまいります。

ワコールは、すべての女性一人ひとりの「心身の個性美表現」をトータルにサポートする「ボディデザインビジネス」を事業領域としています。その「ボディデザインビジネス」の「コアコンピタンス」のひとつであるワコール人間科学研究所。1964年の設立以来、女性のこころとからだの両面から、様々な切り口でデータを集め、すべての年齢および年代で楽しく美しく生活するためのエイジング研究、「スパイラルエイジング」を追跡調査しています。

調査概要

株式会社ワコール 人間科学研究所と京都女子大学 生活造形学科との共同調査

- 調査期間／2000年8月21日～31日
- 調査対象／[今回収集データ] 2000年：10歳～18歳 479名
[比較サンプル] 1980年：中学生・高校生 2871名
[比較サンプル] 1999年：成人(19歳～26歳) 225名



体型が変わった。 意識はどう変わった？

新世紀ティーンのかからだ意識は、13歳と15歳で大きな変わり目を迎えます。(詳細は別表参照)
13歳で“からだ意識”が芽生え、15歳でからだへの否定的意識が強くなります。
ここでは全体の傾向について「からだの変化」と「意識の変化」を対比しました。

体型

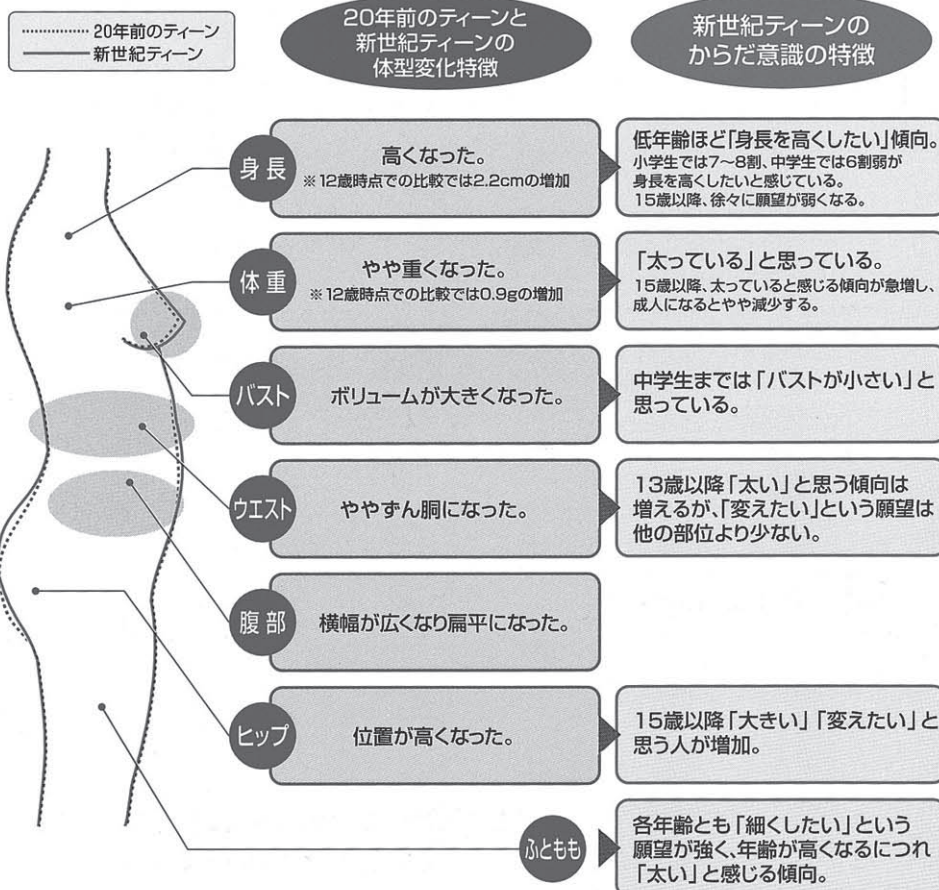
全体的にはほっそりしたプロポーションだが、
バストは豊かになった。

そして、意識は…

意識

「自分のからだ嫌い」「太っている」「変えたい」
特に「バストを変えたい」という意識が強くなった。

ポイントは、13歳と15歳。13歳では、「バストが小さい」「脚が太い」「プロポーションが悪い」
「自分のからだ嫌い」と感じ始め、15歳以降では、「脚が太い」「ヒップが大きい」「太っている」
と感じています。



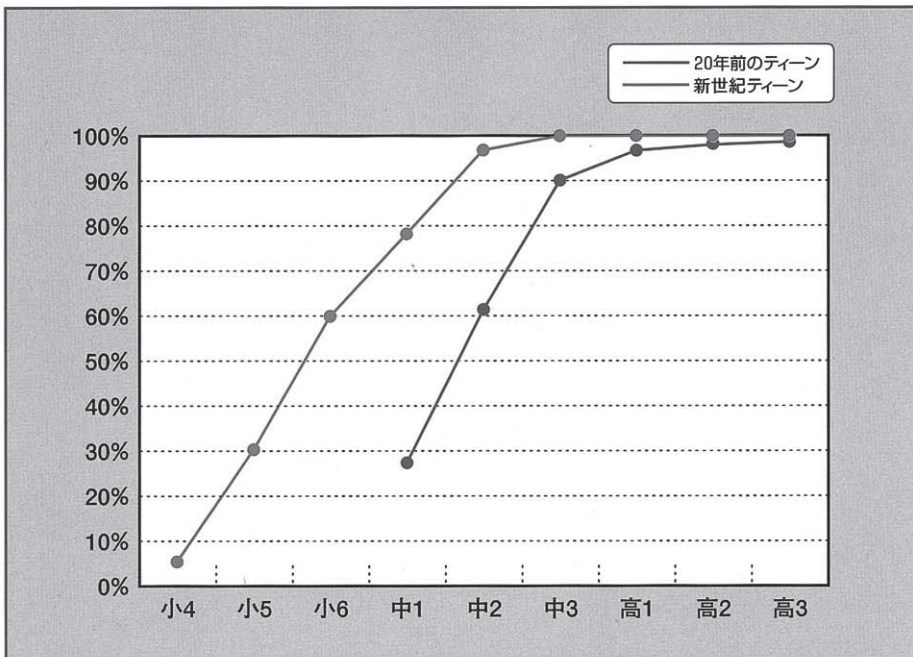
バストの成長と ブラジャーの着用との関係は？

テーマ2

Information

ここでは、新世紀ティーンたちのブラジャー着用の実態と意識についての概略をまとめました。ブラジャーを着け始める理由は、「バストが目立ってくるので」がトップで、ブラジャーの着用率は、20年前と比べると2学年早く同じ割合になっています。

ブラジャー着用率



ブラジャーを着け始める理由

順位	20年前のティーン	新世紀ティーン
①	友達が着け始めて	バストが目立ってきて
②	体育の時必要だから	周りの人に勧められて
③	周りの人に勧められて	友達が着け始めて
④	バストが目立ってきて	体育の時必要だから

新世紀ティーンのブラジャー意識の変わり目は15歳と17歳

着け始めにはサイズやフィットに関する不満が見られ、それに加え15歳で安定や色・デザインに関する不満が増え、17歳で造形やバストを大きくみせることに対する意識が強くなります。(詳細は別表参照)

フコック通信 No.321
2001. 11. 21 発行

WACOAL CORP.
CORPORATE COMMUNICATION OFFICE

「新世紀ティーン」のからだ意識まとめ

新世紀ティーンのかからだ意識について、年齢を追って一覧表にしたものです。

	小学生			中学生			高校生			成人 19~26歳
	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	
からだ意識	①現代の少女は「自分は太っている」という意識が強い。 ②からだ意識の変わり目は13歳と15歳にある。 ・ローティーンは「バストが小さい」 ・ハイティーンは「太っている」「自分のからだは嫌いだ」と思っている。									
ダイアログ意識	変かえたいを願望									
ブラジャーに対する意識	①ブラジャー意識の変わり目は、15歳と17歳にある。 着け始めにはサイズやフィットに関する不満が早かれ、それに加えて15歳で安定や色、デザインに対する不満が増え、17歳で形状やバストを大きくさせることに対する意識が強くなる。 ②ブラジャーの着用年齢は20年前より早くなっている。									
からだ意識	①現代の少女は「自分は太っている」という意識が強い。 ②からだ意識の変わり目は13歳と15歳にある。 ・ローティーンは「バストが小さい」 ・ハイティーンは「太っている」「自分のからだは嫌いだ」と思っている。									
ダイアログ意識	変かえたいを願望									
ブラジャーに対する意識	①ブラジャー意識の変わり目は、15歳と17歳にある。 着け始めにはサイズやフィットに関する不満が早かれ、それに加えて15歳で安定や色、デザインに対する不満が増え、17歳で形状やバストを大きくさせることに対する意識が強くなる。 ②ブラジャーの着用年齢は20年前より早くなっている。									

	小学生			中学生			高校生			成人 19~26歳
	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	
からだ意識	①現代の少女は「自分は太っている」という意識が強い。 ②からだ意識の変わり目は13歳と15歳にある。 ・ローティーンは「バストが小さい」 ・ハイティーンは「太っている」「自分のからだは嫌いだ」と思っている。									
ダイアログ意識	変かえたいを願望									
ブラジャーに対する意識	①ブラジャー意識の変わり目は、15歳と17歳にある。 着け始めにはサイズやフィットに関する不満が早かれ、それに加えて15歳で安定や色、デザインに対する不満が増え、17歳で形状やバストを大きくさせることに対する意識が強くなる。 ②ブラジャーの着用年齢は20年前より早くなっている。									
からだ意識	①現代の少女は「自分は太っている」という意識が強い。 ②からだ意識の変わり目は13歳と15歳にある。 ・ローティーンは「バストが小さい」 ・ハイティーンは「太っている」「自分のからだは嫌いだ」と思っている。									
ダイアログ意識	変かえたいを願望									
ブラジャーに対する意識	①ブラジャー意識の変わり目は、15歳と17歳にある。 着け始めにはサイズやフィットに関する不満が早かれ、それに加えて15歳で安定や色、デザインに対する不満が増え、17歳で形状やバストを大きくさせることに対する意識が強くなる。 ②ブラジャーの着用年齢は20年前より早くなっている。									

*BMI = 体重(kg) / 身長(m)²
 体格をとらえる国際的指標。BMIが高いほど太っていると考えることができます。

《服飾造形学からの見解》

京都女子大学 福井弥生 名誉教授
京都女子大学 畠山絹江 教授

自分のからだを「太っている」「嫌いだ」と考えることへの社会的背景

- 1) 同学年の一番身近なクラスメイトと比べる。
- 2) ファッションショーに登場する美しいモデルや、音楽番組に登場する10代のアイドル少女のスタイルを意識する。
- 3) 食生活と病気、肥満、健康問題についてメディアが発信する多くの情報がある。

こうしたテレビや雑誌から得た情報によって、自己の美の基準や生活習慣をイメージし、実際の自分のからだや行動が、その基準から逸脱していることが“太っている”という認識につながる。同時に、自己をへりくだって考える、いわゆる羞恥心が芽生える時期でもあり、太っていることや肥満ということに対して敏感になってしまう。

また、ファッション情報を得る雑誌には、必ず痩せるための食品広告が3～5件あり、「短期間（1週間～30日）で効き目があらわれ、今時の服装をしても着痩せして見える」といった記事などの影響が大きいと思われる。ちなみに雑誌講読者は、全体の91%に及んでいる。

（京都女子大学調べ）

《思春期医学からの見解》

京都大学医療技術短期大学部 中井義勝 教授

13、15歳にからだ意識の変わり目があることについて

- 「現代の少女の体型特徴（以下体型）」と「現代の少女の意識（以下意識）」の対比から
- 「体型」のデータから、13歳では身長が増加が少なくなっても、ヒップ、ウエストは同じ割合で増加しているため、13歳でヒップやウエストが相対的に太いと感じ始めて、意識が変わるのではないか。
 - また15歳で、身長の伸びは停止してもヒップ、ウエストは16～17歳までは増加している。そのため、15歳でヒップやウエストがさらに相対的に太いと感じて、意識が変わると考えられる。

これらの体型の変化は、初潮後、卵巣からの分泌が増加する女性ホルモン（エストロゲン）に依存している。

今回の「意識」でもうひとつ注目する点は「ダイエットに対する意識」。

からだが成熟するまでに、実際にダイエットをおこなうことには危険を感じる。